



4月26日、熊本県庁で行われた進出協定調印式。協定書にサインするエム・テック株式会社代表取締役社長 榎村眞一氏と佐藤市長。

## 企業誘致で赤水に工場新設

阿蘇市が所有している工業団地(赤水)に、新たな企業が立地することになりました。

今回立地する企業は、大阪に本社をもつ「エム・テック株式会社」という医薬品や化粧品メーカー向けの製造機械を生産する企業で、新設される阿蘇工場では、高速乳化分散機(※1)の設計製造が行われます。

阿蘇市がこの誘致を決めた理由として、公害面に対する安全性が確認されたこと、また、十分な雇用と税収が見込まれるなど、当地

における条件を満たす企業であったためです。

なお、今後の予定としては、5月中に企業側へ物件の引渡しを行い、売買完了後に企業側が現在の施設を一部改修して、7月から操業を開始する予定です。

(※1) 水と油のように本来は混ざらないものを、小さな粒子にして均一に混ぜ合わせる機械のこと。



一部改修し、新しい企業が立地する赤水の工業団地。

## バイオマスエネルギー地域システム化検討委員会が発足



阿蘇市が昨年から取り組んでいる「バイオマスエネルギー地域システム化実験事業」の内容・状況・計画等に関する意見の交換や検討を行う、バイオマスエネルギー地域システム化検討委員会の初会合が4月21日、一の宮保健センターで開催されました。

委員会の冒頭、市に本事業を依頼したNEDO技術開発機構の木内主査が「草のエネルギー化は他に例がないため、全国から注目されている。ぜひ実験を成功させていただきたい。」と、実験事業の成功への期待を述べられました。

その後、阿蘇市から事業内容についての説明があり、各委員から活発な質疑応答が行われました。なお、検討会は左記のメンバーで今後も定期的に関われます。

また、4月22日には、「第1回阿蘇市バイオマスセミナー」が農村環境改善センターで開催されました。セミナーは、バイオマスについて関心をもってもらうとともに、「草バイオマスエネルギー地域システム化実験事業」への理解と協力を得ることが目的で、今後も年間3~4回開催する予定です。

セミナーでは、NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク(千葉県柏市)理事長の泊みゆき氏が「バイオマスって何?」と題して基調講演の後、NPO九州バイオマスフォーラムの中坊真主任研究員の「草をエネルギーに変える」、株式会社環境の岩下和久常務取締役の「市で菜の花プロジェクトを進めよう」のテーマで総合討論が行われました。

会場からは、「急傾斜地で効率的な収集運搬が可能か?」といった質問や「新エネルギーを利活用するために協力したい」と牧野組合からの声も上がりました。



バイオマスセミナーのもよう。

### <委員会メンバー>

- 北海道大学  
名誉教授 千葉 忠俊
- (財)電力中央研究所  
主任研究員 山本 博巳
- (独)農業工学研究所  
資源循環研究室長 柚山 義人
- (独)近畿中国四国農業研究センター  
主任研究官 高橋 佳孝
- 九州大学農学研究院  
教授 吉田 茂二郎
- 熊本県立大学環境共生学部  
教授 篠原 亮太
- (独)産業技術総合研究所  
主任研究員 小木 知子